

## コムギ赤かび病の発生に注意しましょう！

[現在の状況]

- ① 赤かび病の原因となる赤かび病菌の子のう胞子は、気温が高く、曇雨天の日に飛散する。本年は、4月22日～26日にかけて県内の多くの地点で赤かび病菌の胞子飛散好適条件が連続して出現した。また、4月30日～5月2日および5月7日～8日にも出現している（表）。
- ② 5月9日発表の気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生を助長する条件である。

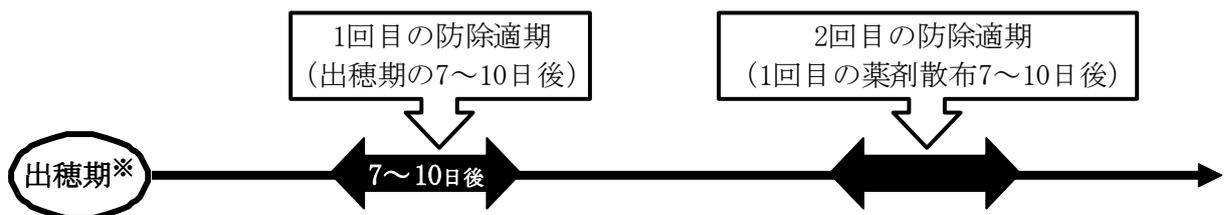
表 赤かび病の子のう胞子飛散好適条件の出現状況

	アメダス地点	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9
県北	日立				●	●	●	●				●	●	●					●		
	常陸大宮				●	●	●	●				●	●	●					●		
県央	水戸			●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	笠間			●	●	●	●	●				●	●						●		
鹿行	鉾田			●	●	●	●	●					●						●	●	
県南	土浦			●	●	●	●	●					●	●					●	●	
	龍ヶ崎		●	●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	つくば			●	●	●	●	●				●	●						●		
県西	下館		●	●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	下妻			●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	古河			●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	

●：子のう胞子の飛散好適日（日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、降雨日またはその翌日）

[防除対策]

- ① コムギは、開花から 10 日間程度の間が最も感染しやすい時期であり、1 回目の防除適期は開花始期～開花期（出穂期の 7～10 日後頃）である（図）。出穂期および防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。なお、使用薬剤については病害虫速報 No. 1（令和 6 年 4 月 5 日発表）を参照する。
- ② 薬剤散布をまだ行っていない圃場では直ちに薬剤散布を行う。今後、降雨が続く場合や、3 月の低温により幼穂が凍害を受け不稔粒の発生が懸念される場合は、1 回目の薬剤散布の 7～10 日後に 2 回目の散布を行う。2 回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いる。なお、薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する。



※出穂期：圃場全体の 40～50%が出穂した日

図 コムギ赤かび病の防除適期